

皆さんは虐めをされたことはあるだろうか？継続的に虐めをしていなくとも、一時的にいじめを受けてもそれは虐めだ。私はインターナショナルスクールに転校する際、先生からいじめを受けたことがある。これは先生と私の対立と先生がどれだけ哀しい存在だったかという説明論文である。

私は元々先生に虐めなどを受けていたがインターナショナルスクールに転校することが確定してから学校からいなくなるまでの二週間、虐めはエスカレートした。どういうわけか気に入らなかつたらしい。だが正直言って私は素行が悪かったわけではなく、他に問題児はたくさんいたが自分が標的にされたのだ。意味もなく立たされたり、全員平等に意見を聞くからと言いつつ無視されたり、自分にばかり必要以上に突っかかってきたり。今の時代ではパワハラと呼ぶだろう。パワハラが社会に浸透し始めたのは2001年からであり、先生も30代後半だったので知っているはず。自分がされたら嫌なのは明白なのに大の大人が悪道に走ったのだ。はっきり言ってうんざりして癢に触ったが、我慢していた。そこで学校からいなくなるまでの二週間の間、なぜそういうことをしてくるのかと考えるようになった。私は図書館に行き虐めや差別、昔の日本の主義などに関連する本を読み漁り、自分の頭の中でノートを作った。そうして虐めがエスカレートし始めた二週間のうちの1日目が終わった。

学校からいなくなる二週間の二日目から七日目、私は思いっきり反抗した。抵抗心が沸いたからだ。二日目から七日目の昼休憩の半分を図書館のために使いいつしか、「なんでこの先生はバカで惨めなんだろう」という理由を知るために調べていた。そうして徐々に自分の中での結論がはじめていた。みんなと同じであること、変わらないこと、そして虐めをしないと気が済まないなどの深層心理がある人間は惨めだということに。自分で言うのはなんだが私は昔から変わり者で、変わったことばかりをし、気になるをことを調べるために行動する、考える人間だった。そういう自分を見た先生は、妬ましいと感じたのか自分を虐めの対象にしたのだろう。なぜなら先生は「昔の日本」を学び、みんなと同じであることや変わらないことが幸せであるということ学んだか、自分でそう思っているから。あろうことかインターナショナルスクールに転校するという異色で、周りの違いすぎるから。だから転校する二週間前から虐めがエスカレートしたのだろう。そう自分の中で結論を出した。

転校する一週間前、私は先生からの虐めを何とも思わなくなった。所詮時代遅れで、新しいことをし、変わっているのはいいことだと受け入れ始めた社会や現実には浸透していない老いぼれだからだ。そんな先生はかわいそうだと思った。転校する三日目の道徳の授業で図書館に行った際、アメリカの黒人差別の本を読んだ。自分の肌の色が違うというだけで差別される世界が書かれていた。これは先生が自分の知っている人の在り方と違うという理由だけで虐めをしてきたのと酷似しているのである。

これが私と先生の対立だ。幸いなことに今の学校では変わっていること、周りと差別化することがいいことだと認められているから相当に自分に合っている学校だ。ぜひ自分と似ている対立にあった際は相手が哀れだと思い、考えてみてはどうだろうか？